

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

← 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		「健康は人生最高の宝」の理念のもと 食を中心とした健康の保持・増進、そして予防を第一に考えていきたいと思えます。『心と愛情』が介護の基本と考え、心をこめたサービスの提供に努めたいと思えます。「ご自分のお家」として生活して頂けるように、利用者の立場にたった利用者本位という考えのもと、快適と安全の確保に努めたいと思えます。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		3つの理念のもとに、健康の保持・増進・予防について、また、心をこめたサービス提供について、さらに、快適と安全の確保について、会議やミーティング時等にて、その都度、改善等の話し合いや意見交換をしている。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		「地域参加」の理念のもと、利用者が地域の行事や事業所の行事に参加できるよう、家族への案内や連絡を密にし、また、参加後の利用者の様子等も逐次報告し、家族等にも理解をして頂けるように努めている。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		利用者の散歩時等で、近隣の方々と挨拶を交わしたり、近隣のお店で買い物をしたりと、隣近所との付き合いをなるべく円滑にできるよう努めている。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		地域で行われる運動会等の行事にも参加させて頂いたり、地域の中学生の1日体験学習等の受け入れを行ったりと、地元の方々との交流を図っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>地域の行事等に参加することにより、地域の高齢者の状況を把握したり、また様々な情報を頂くこともあり、内容によっては、事業所に対応させて頂き、また、必要に応じては、他機関とも連携をとることもある。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価・外部評価を行った結果での改善点等を会議だけでなく、常日頃より職員同士で話し合い、具体的施策に取り組んでいる。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は、年に2回開催しており、サービス向上に向けた取り組みの報告や話し合いを行っている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>機会ある毎に、社会福祉協議会や役所担当者と運営や事務手続き等について、連絡・相談を取り合い、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>この制度を活用する必要がある利用者がある場合は、職員または関係者と話し合い、利用できるよう支援している。ただ、全体的な職員の勉強会等は、権利擁護に関しては行われていない。</p>		<p>今後、権利擁護に関する制度について、年間の職員内部勉強会の実施や外部研修会にも積極的に参加していきたい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>高齢者虐待に関する勉強会を年間内部研修計画として行っている。また、事業所内で虐待が見過ごされることがないよう、職員全員に徹底している。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を实践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約や解約時には、利用者や家族等の不安点や疑問点を聞き出しながら、十分な説明を行い、理解・納得を頂いている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関の受付窓口に「苦情・意見箱」を設置している。また、苦情受付担当者が手順に従って、苦情解決への対応を行っている。また、今後に向けた改善策も同時に職員全員に徹底している。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>利用者の健康状態の変化に関しては、その都度、家族等に連絡している。また、利用者の暮らしぶり等については、家族の面会時等にて随時連絡している。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関の受付窓口に「苦情・意見箱」を設置している。また、苦情受付担当者が手順に従って、苦情解決への対応を行っている。また、今後に向けた改善策も同時に職員全員に徹底している。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月に一回、事業所職員による全体会議を実施し、職員の意見や提案等を聞き、内容により討議等を行う機会を設けている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟に対応できるように、人員を配置している。また、必要に応じ勤務変更もを行っている。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員が異動や離職する場合は、利用者に誤解のないよう十分に説明し、利用者のダメージを極力防ぐ配慮をしている。また、新任職員や交代職員の紹介や引継ぎも行っている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内では、月に1回の内部研修(他に法人グループの内部研修もあり)、年に1回の新人研修がある。また、新人研修後はOJTによる教育をしている。スキルアップのための研修も施設外において、積極的に行われている。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者で行う勉強会への参加をしている。機会をみつけ、他所を訪問したり、見学に来て頂いている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者や職員と一緒に話し合える機会を増やし、相談を受けたり、スーパーバイザーとしての役割を果たすよう、心掛けている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	定期的に職員の意向や希望等を聞く機会を作っている。また、職員の職務や能力に応じた研修や勉強会への継続的な実施や参加を行っている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご本人様とゆっくり話をし、不安に思っている事、困っている事などを聴き、軽減できるようにしている。利用開始後も話をする機会を設け、不安や気になる事などを理解したり、受け止める努力をしている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	来所・電話・訪問等、状況に応じてお話しを伺う機会を設け、不安や困っている事を受け止める努力をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様・ご利用者様の状況を把握して、主訴に基づいた支援を心掛けている。リハビリ・外泊・医療機関への受診・買い物・希望の食事への変更など、可能な限りの対応に努めている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に見学をして頂き、雰囲気を感じて頂くと共に、施設や職員、また他利用者とも、少しずつ馴染めるように、見学後の感想等をご家族様やご本人様とよく話し合い、できるだけ期待に応えられるように対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ関係を築いている	職員は、ご利用者様の生活歴・趣味・特技等、常に人生の先輩としての尊敬、尊重を忘れず、同じ目線で共に学ぶ姿勢を持っている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	支援方法に関しては、ご様子をご家族様へ伝えたり、面会等でご確認を頂きながら、共に考えられるよう努めている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会にお出で頂けるように、お声掛けしたり、また、外泊や外出に関しても、利用者様の健康状態等をご家族に連絡・相談しながら希望に添えるよう努めている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者様と親しい方々等に、お電話やお手紙を書いて頂いている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気の合う方々同士で、気軽に話ができるように、座席の配置を工夫したり、お茶の時間等も使い、利用者同士が関わりを持てるように努めている。また、レクリエーション等でも利用者様同士の交流を促している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	<p>関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>ご家族様が希望になられる場合は、お祭りや行事等にお声をかけたり、相談を受けたりしている。また、必要があれば連絡をとっている。</p>		
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p>				
<p>1. 一人ひとりの把握</p>				
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>ご利用者様一人ひとりの生き方・過ごし方を理解し、希望や意向などを職員同士で話し合い検討している。</p>		
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>生活の様子や好みなどをご家族にも伺いながら、ご利用者様一人ひとりの生き方・過ごし方を理解し、職員同士で話し合いながらケアを行っている。</p>		
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>食事時間や排泄介助・機能訓練・散歩など、その方のリズムに応じて対応できるよう、日々生活のリズムの把握に努めている。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>				
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ケースカンファを行い、ご利用者様のケアについてご家族様・ご利用者様に意見を聞き、説明も行いながらご理解頂いている。また、ご家族様からの意見やアイデア等も参考にさせて頂き、介護計画作成を行っている。</p>		
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>必要が生じた時は、ケースカンファを行い職員間で話し合い見直しを行う。また、同じようにご本人やご家族様ともお話しをし、ご意見等を聞きながら、十分説明を行い、新たに介護計画を作成させて頂いている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者様のケアに対しての様子等、ケース記録に記入し、介護計画作成や見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所内には、週3回のデイサービスも併設されており、入所者との交流もできる体制にある。また、同系列の関連機関もあり、利用者様や家族様の状況や要望に応じたサービスを提供できる体制にある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地元の小中学校より体験学習や見学等の依頼もあり、お互いに協力し合いながら支援をしている。また、施設行事等にて、ボランティアの応援を頂いたり、図書館にて書籍や紙芝居をお借りすることもある。また、年に2回、防災訓練にて地元消防署の協力を頂くこともある。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ご本人が必要な場合、他事業所のケアマネジャー等に相談をしながら介護タクシーを使用し、病院受診や外出等に利用して頂いている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在のところ、地域包括支援センターとの協働は特にされていない。		今後、権利擁護や総合的マネジメント等について、協働を図っていきたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様が利用していたかかりつけ医をなるべく利用している。また、当施設と同系列の医療機関もあり、事業所よりご利用者様の健康管理についても連携をとっている。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>必要な場合、その都度連絡を取り合っている。また、往診にも来て頂いており、相談・診断・治療を行っている。</p>		
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>当施設の看護職員と地域あるいは当社同系列の看護職員に日常生活の健康管理等について、相談しながら支援している。</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>病院のソ - シャルワーカーや医師等、入院時より退院に関する情報交換・相談に努めている。また、入院になった場合に備えて、ご家族様・医師等と話をしよう努めている。</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>緊急時等も含め、発生した場合はマニュアルに沿って対応し、体調変化時は、その都度、連絡・相談している。また、重度化した場合や終末期の場合は、同系列の介護福祉施設や医療機関により、手厚い介護や看護が受けられる体制がある。</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>重度化や終末期の利用者様が心地よく、そしてより良く暮らせるよう、全職員に対してターミナルケアの勉強会も行っている。また、運営者や医師、職員等によって、今後の変化に備えた準備や検討を行っている。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>ご利用者様やご家族と綿密な連絡をとり話し合っている。また、住み替え時には、普段から使い慣れた家具や用具などを持ってきて頂き、できるだけご本人様が過ごしやすい環境にすることに努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>全職員に対して、内部研修において接遇の勉強会を定期的に行っている。利用者様に対する言葉使いや対応には、十分気をつけるよう徹底している。また、個人情報に関するご利用者様の記録等は、鍵付きの棚にファイリングして保管している。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>できることに関してはご自分でできるよう支援し、そのことについてのご理解、ご納得を頂けるようお話しをしながら対応している。また、洋服等の着替え時には、利用者様のご希望により衣類を選択できるように心掛けている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>食事や日中の過ごし方など、なるべくご利用者様一人ひとりに応じた過ごし方をして頂いている。ご希望があれば、できるだけ希望に添えるよう努めている。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう相談・検討も行って対応している。また、理容等でご本人様行きつけの店の利用を希望する場合も極力希望に添えるよう対応している。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者や職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事の準備を手伝って頂いたり、下膳を手伝って頂いている。また、楽しみの時間となるよう、食事前にメニューをボードに書いて頂いたり、メニューを放送して頂いたり、また、時には選択食にて選んで頂いたりしている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>「ご自分のお家」の理念のもと、ご本人様の嗜好に関しては、できるだけ対応できるように努めている。適量の晩酌や宅配牛乳、喫煙等も、ご本人様の希望により、健康や安全に注意しながら対応している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>一人ひとりの排泄パターンをつかむことにより、個々の時間での排泄を支援している。それにより、失禁やおむつ・パットの使用を減少させている。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>基本的には、入浴日を設定しているが、ご利用者様の希望や健康状態等により、ほぼ毎日入浴ができるよう支援している。</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>「ご自分のお家」の理念のもと、できるだけご自宅と同じ環境を用意できるようにしている。馴染みのある布団や枕等を持ってきて頂き使用することにより、安眠や休息等の安心した時間を過ごして頂けるよう支援している。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>洗濯物をたたんで下さったり、食事のメニュー案内の放送等、一人ひとりの生活歴や能力に合った役割を持って頂いている。また、個々の趣味等も続けられるようにしたり、レクリエーション・散歩・外出等により、楽しみや気晴らしの支援をしている。</p>		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ご自分で管理できる範囲内でお金を持っている利用者様もいる。その他の利用者様に対しては、お預かりしており、必要に応じて出納している。</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>利用者様の健康状態や天候状況を考慮した上で、ご利用者様一人ひとりのその日の希望に沿って、散歩や買い物等で外出できるように支援している。</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>他利用者様やご家族と共に施設外に出たりする機会を設けている。他利用者様や職員と一緒に花見に出かけたり、ご家族と一緒に墓参りに行かれたりと、外出に関して支援をしている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の希望により、ご家族や知人・友人などへのお手紙や電話を気軽に行えるように支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会は随時対応しており、気軽に訪問して頂ける雰囲気がある。面会時には、お部屋で一緒に食事をされたり、テラスにて談笑されたりと、心地よく過ごせるよう支援している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に高齢者虐待・身体拘束に関する内部研修会を行っており、管理者・職員とも常日頃から身体拘束しないケアについて話し合っている。また、徘徊マットや鈴等を使用し、環境面での工夫を行っている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者及び全職員が、鍵をかけることの弊害を理解しており、一人で外出する可能性がある利用者様については、見守りを重視するようにしている。現在は、表道路への飛び出し等の危険性の観点から、外門は常時開放している一方、表玄関は施錠している。		施設の裏道の整備もでき、出入り口を変えるという選択肢もできた。鍵をかけないケアについて、今後も運営者及び職員により、より良い施策を考え、実施していきたい。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ご本人様のプライバシー等に配慮しながら、常に安全確認・所在確認を行っている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの状態に合わせて、張り紙等も使ったりして、危険がないよう職員間で話し合い、保管等を工夫している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	様々な事故防止のため、各種のマニュアルを作成しており、いつでも見られるようにしてある。また、ご利用者様一人ひとりのその日の状態に応じて、危険が無いかどうかを管理者・職員間で常に話し合いケアに活かしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	事業所の内部研修により、急変時の対応についての勉強会を行っている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火管理者を置き、年に2回の防火訓練及び非難訓練等を実施している。また、マニュアルや緊急連絡網も作成し、職員の役割分担を明確にしている。さらには、緊急時は地域の方々にも協力を得られるよう声掛けをしている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者様の急変時等、一人ひとりに起こりうるリスクについて、ご家族の連絡先やご家族の意向・考えを書面にて頂いており、非常時にも対応できるようにしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	ご利用者様のバイタルチェックや顔色、気分等を観察し、異変に対しての早期発見に努めている。また、協力医療機関との連絡も円滑に行える体制がある。職員間の情報共有方法としては、日に3回の申し送りにて行われている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者様の薬情報はファイルにまとめられており、必要に応じて、職員が効能・副作用・用法や用量等を確認できるようになっている。また、服薬により異状が見られた場合は、早急に看護師等に連絡をとっている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日、朝食時にヨーグルトをメニューに入れている。ご希望の方には、宅配牛乳も飲んで頂いている。また毎日午前10時には、体操と歩行練習を行うなど、便秘予防に取り組んでいる。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	できるだけ、ご自分で口腔ケアをして頂いている。また、必要に応じては職員の介助にて口腔内の清潔保持に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者様個々にあった食事量、栄養バランスを考えて食事をお作りしている。水分が摂りにくい利用者様には、ボカリスエットゼリー等で摂取して頂く等の工夫をしている。また、欠食等の情報は職員の申し送り時に引き継がれ、一日トータルでの栄養管理が行われている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症に関しては、事業所内部研修も実施され、また、対処マニュアルも作成されている。また、MRSAなどの感染症の場合は、滅菌庫を設けて個室対応にて二次感染を防ぐ対応もしている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	栄養士により、調理器具・食器等の衛生管理を行っている。また、新鮮で安全な食材を選び使用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りの清掃を心がけ、また、花木類を植えたりして、親しみやすく安心して出入りできるように工夫している。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、いつも清潔でいられるように小まめな掃除を心掛けている。また、季節感を取り入れ、季節の草花や果物やカレンダーを飾っている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルを置き方を工夫したり、畳のスペースを作ったりして、自由にお好きな場所に行けるよう工夫している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用様が居心地よく過ごせるように、昔なじみの使い慣れた家具・洋服・布団・枕等を持ってきて頂く等の工夫をしている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	施設内は随時換気を行っている。また、基本室温設定として、夏は28、冬は20 のエアコン設定にしており、外気温との差が大きくなるよう配慮している。利用者様の状況や天候状況により小まめな温度調整も行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内では、できるだけ自分で活動できるよう障害物も少なくし、手すり等も設置し、安全に配慮している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者様の居室ごとに、壁紙やカーテン等を変えており、ご自分のお家として認識できるように工夫している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	テラスでお茶を飲んだり、天気の良い日は施設外の庭で草花の手入れ等をして楽しむこともある。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に つけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

職員全員が一人ひとりの利用者様の思いを大切にし、この施設を「ご自分のお家」と思って頂けるように、心と愛情を持って対応、そして接している。また、同系列の協力医療機関との連携もあり、利用者様が安全で安心した生活ができるように努めている。